

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月12日
学校法人念法学園
幼稚園型認定こども園念法幼稚園

1. 本園の教育目標

園訓「げんきなからだ・すなおなこころ・かんしゃのきもち」を大切にし、一人ひとりが安心できる環境の中で、遊びや生活を通して多様な体験を積み重ね、生きる力を育む。また、子どもたちの「今」と「未来」を大切にし、一人ひとりの育ちを尊重しながら、心と体の健やかな成長を支える。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

これまでの自己点検・評価の結果や、年度末の保護者アンケートの意見を踏まえ、下記の点を重点的に取り組む。

1. 教職員間の連携を再構築し、チーム力を高める

共通理解の深化・情報共有・協働体制を整え、学び合いを促進することで、チーム力を高め、保育の質向上を図る。

2. 子どもの育ちを支える保育環境の充実を図る

子どもたちの姿から、どのような環境を構成することで遊びが広がったり、深まったりするかを日々の保育の振り返りから考えて、環境の再構成をし、充実を図る。

3. 保育の可視化を進め、保護者と子どもの成長を共有する

園での子どもたちの姿を発信することで、保護者と子どもの成長を共有するだけでなく、保育者自身の子ども理解に繋げる。

4. 園内外の研修を充実させ、教職員の専門性向上を図る

教職員が自ら必要な研修を選択できる仕組みを整えとともに、園が立場や役割に応じた研修を促進することで、専門性の向上を図る。

5. 安心・安全な園運営と管理を徹底する

保育室や園庭だけでなく、園児が安心安全に過ごし、保護者も安心して子どもを預けれる環境づくりを意識する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	達成及び取り組み状況
1	教職員間の連携を再構築し、チーム力を高める 共通理解の深化・情報共有・協働体制を整え、学び合いを促進することで、チーム力を高め、保育の質向上を図る。	年度初めのキックオフミーティングで、学園の設立経緯や理念、教育方針を共有し、チームで取り組む重要性を確認する。また、一人ひとりが自分にできることを考え、主体的に関わる意識を高める。 保育はチームでの協働が重要であるものの、役割や立場の違いから業務内容に差があり、十分な連携強化には至っていない。今後も継続的に取り組み、チーム力の向上を図る。
2	子どもの育ちを支える保育環境の充実を図る	保育室では、前日の振り返りをもとに環境構成を行うことに取り組み、園庭では月1回の環境チームの話し合いを通じて環境の充実を図った。しかし、各コーナーのねらいが

	子どもたちの姿から、どのような環境を構成することで遊びが広がったり、深まったりするかを日々の保育の振り返りから考えて、環境の再構成をし、充実を図る。	不明確であり、園庭では環境チームで考えたことが十分に共有されていなかった。 今後は、各コーナーのねらいを明確にするとともに、園庭で遊ぶ子どもの姿を共有し、全教職員で環境づくりを考えられる仕組みを整える。
3	保育の可視化を進め、保護者と幼児の成長を共有する 園での子どもたちの姿を発信することで、保護者と子どもの成長を共有するだけでなく、保育者自身の子ども理解に繋げる。	連絡帳で伝えていた子どもの様子を、写真付きのポートフォリオを活用して保護者に共有する形に変更。また、継続的なドキュメンテーションを通じてクラスの様子を伝え、毎学期の保育記録発表では子どもたちの遊びのつながりを発信することで、保育者自身の振り返りや学びにもつなげる。
4	園内外の研修を充実させ、教職員の専門性向上を図る 教職員が自ら必要な研修を選択できる仕組みを整えるとともに、園が立場や役割に応じた研修を促進することで、専門性の向上を図る。	教職員が自ら必要な研修を受けられるよう、シフトや配置を工夫した。また、今年度は大阪市の就学前教育カリキュラムパイロット園として研究保育に取り組み、全日幼児教育実践学会でのポスター発表にも初めて挑戦するなど、保育実践のアウトプットを通じて学びを深めることができた。 しかし、アウトプットの機会に参加した教職員は一部に限られていたため、今後は研究や保育実践発表により多くの教職員が参加できる体制を整え、継続的に取り組むことが課題である。さらに、大私幼の研究プロジェクトへも積極的に参加し、学びの機会を広げていく。
5	安心・安全な園運営と管理を徹底する 保育室や園庭だけでなく、園児が安心安全に過ごし、保護者も安心して子どもを預けられる環境づくりを意識する。	安全対策マニュアルの見直しや、日頃の避難訓練の改善に取り組み、引き渡し訓練や不審者対応訓練など新たな取り組みにも挑戦した。 今後も、実際の状況を想定した実践的な訓練を継続し、訓練の結果をもとにマニュアルの見直しを進め、安全対策をより強化していく。

評価	全体として各項目に着実に取り組んでおり、園としての改善意欲の高さがうかがえる。一方で、取り組みをより深めていくためには、日々の実践を組織全体で共有し、課題を明確にしながら継続的に改善していく仕組みづくりが必要である。これらを積み重ねることで、園全体の専門性向上と保育の質の一層の向上が期待される。
----	--

5. 今後取り組む課題

- 職員間の連携強化
- 保護者への園の方針、取り組みについての伝え方
- 園の取り組みを広く発信する広報活動

6. 学校関係者の評価

保育・教育の取り組みが休むことなく着実に進められており、その実践の広がり大変感心いたしました。

新しい取り組みに課題が生じることは当然ですが、既存の取り組みをよりよくしていくために適切に課題を設定し、改善へ向けて組織的に取り組んでおられる点が、念法幼稚園らしい強みであると感じました。